

お薬のしおり

No.170 (H28.4)

東京医科大学病院 薬剤部

心房細動と経口抗凝固薬について

みなさんは「心房細動」という疾患や「抗凝固薬（血液を固まりにくくするお薬）」というお薬の名前を耳にされたことはありますか？

心房細動とは不整脈の一種で、心臓の心房という部位が震えてけいれんし、それにより血液の流れが滞ることで、心房の中で血栓（血のかたまり）ができやすくなります。この血栓が脳の血管まで運ばれてつまると脳梗塞の引き金になる可能性があり、その予防が重要です。そこで今回は、心房細動とその治療薬である抗凝固薬についてお話したいと思います。

●**症状**：「ときどきする・動悸」、「胸が苦しい」、「息切れしやすい」、「疲れやすい」「めまいがする」「脈が乱れる」など。

●**原因**：心房細動は心臓の病気（弁膜症、心不全、虚血性心疾患（心筋梗塞・狭心症）など）、生活習慣・環境（飲酒、ストレス、喫煙、肥満など）、加齢、高血圧、甲状腺機能亢進症など様々な原因で起こります。

●**治療**：患者さんそれぞれの症状に合わせて、食事や運動など生活習慣の改善や、薬物治療、電気ショックによる治療、カテーテルによる治療などがあり、最適な治療方法を主治医と相談していただくことになります。

●**お薬**：心房細動のおくすりによる治療は、①抗凝固薬（血栓症を予防する）、②抗不整脈薬（心房細動を止めたり再発を防いだりする）、③β遮断薬・カルシウム拮抗薬・ジギタリス製剤（心拍数を調節する）があり、なかでも今回は抗凝固薬を中心に紹介します。

●**ワルファリン（商品名：ワーファリン）**

ワーファリンは、血栓を形成する際に必要な血液凝固因子というタンパク質を作る手助けをしているビタミンKの働きをブロックすることで、血栓が作られるのを予防します。ビタミンK含有量の多い青汁・クロレア製品・納豆はワーファリンの効果を弱めてしまうため絶対に食べてはいけないとされています。ワーファリンのその他の情報については、「ワーファリンというお薬につい



て」(お薬のしおり No.113 : H23年6月) もご参照ください。

●**新規抗凝固薬 NOAC (ノアック)** (non-vitamin K antagonist oral anticoagulants 非ビタミンK阻害^{そがい}経口抗凝固薬)

NOACはワーファリンに代わる新しい経口抗凝固薬として、2011年3月に初めて誕生したお薬で、現在は4種類のお薬(商品名: プラザキサ、イグザレルト、エリキュース、リクシアナ)があります。

●**直接トロンビン阻害薬(商品名: プラザキサ)**: プラザキサは、血栓形成に^{かんよ}関与するトロンビンの働きを^{ちよくせつおさ}直接抑えて、血栓が作られるのを予防します。トロンビンは様々な血液凝固因子の働きによって作られます。

●**Xa因子阻害薬(商品名: イグザレルト、エリキュース、リクシアナ)**: これらのお薬は、血液凝固因子(Xa因子)の働きを抑えることで、血栓ができるのを防ぎ、血管がつまるのを予防します。

●**ワーファリンとNOACの違い**:

NOACはワーファリンとほぼ同じ^{こうか}効果が認められており、^{ずがないしゅっけつ}頭蓋内出血などの大出血はワーファリンよりも少ないと言われています。ワーファリンにはビタミンK含有食についての食事制限がありますが、NOACには制限がありません。また、ワーファリンは採血の結果(^{ピーティーアイエヌアル}PT-INR^{*})によってお薬の量の調節をしますが、NOACは基本的には変わりません。

一方、NOACはワーファリンと比べてお薬の価格が高く、お薬の効果が切れる時間が速く、一度の飲み忘れて心原性脳梗塞のリスクが増大してしまうという欠点があります。忘れずに毎日飲むことが重要です。

※PT-INR: 正常を1と規定し、正常に比べて何倍、凝固しにくくなっているかを示す検査値。

●**注意すべき副作用**: 上記のワーファリンやNOACを服用している場合、出血したときに血が止まりにくくなっています。^{はぐき}歯茎からの出血、^{しゅっけつ}鼻血、^{はなぢ}皮下出血(あおあざ)が起^おこりやすくなるため、^{はみが}歯磨きや鼻をかむのはやさしく行い、^{かのうせい}けがをする可能性のある^{うんどう}運動や^{さぎょう}作業は避けましょう。その他、^は吐き気・^{おうと}嘔吐・^{とけつ}吐血・^{けつべん}血便・^{けつによう}血尿、^{ずつう}激しい頭痛・^すろれつが回らないなどの症状がある場合には、すぐに主治医に連絡し、受診をするようにしてください。

また、出血を伴う検査、手術、歯の治療などを受ける予定があるときは、事前に主治医へ相談しましょう。他の病院や他の科を受診する際は、抗凝固薬を服用していることを医師へ伝えるようにしてください。

